

平成29年2月定例記者会見要旨（平成29年1月26日開催）

1. 商店街の活性化について

商店街の振興策として、第4土曜デー・囲碁まつり・坂出商業高校のセキレ等、人が集まるイベントをこれまでも実施してきた。空店舗が多い商店街のにぎわいを取り戻すために、新たな店舗を作り、人を集めるのではなく、昨年の芸術祭以降「さかいでアートプロジェクト」などを開催し商店街に芸術で、にぎわいの創出を図っている。昨年11月から12月にかけても瀬戸フィルハーモニー交響楽団の街角コンサートを、なんでも広場などで開催した。年末から1月29日までは「逃げた動物園」ということで、人工土地から元町名店街にかけて、造形作品を展示している。また店自身の持つ魅力を通じて付加価値を付けるイベントとして、2月18日・19日には、「坂出ミセモノガタリ」という演劇をオアシス元町で予定している。実在する店舗での実際にあったエピソードでシナリオを作成しているため、店舗に訪れたことがあるかたに、興味を持っていただくことで、演劇になじみのないかたにも足を運んでいただきたい。

また通所介護施設や認知症対応型通所介護施設、子育て支援センターなどが商店街に開設されている。こうした福祉施設自体、人が集い憩える施設となっており、これらの施設を利用したかたが、買い物をして帰るといった新たなコラボも出来つつある。

郊外型、大型店舗の進出により、商店街の再生は難しいが、下水道の整備も進めており、道路整備のできているところから、一部周辺の開発が進みだしてきている。

コンパクトシティーを目指す本市の中心市街地は、多くの生活関連施設が集積しており、非常に利便性の高い区域である。商店街地区においては、商業施設のほかに福祉施設やマンションの建設もあり、今後は商住共存した町なか居住がさらに進んでいくものと考えている。

引き続き商店主や坂出商工会議所等関係団体との共働により、商店経営の支援や商店街の活性化に向けた取組を推進し、人々が集い・交流できる魅力とにぎわいのある商店街および中心市街地の再生整備の促進に努めてまいりたいと考えている。